

Q 教育のテーマである「生きる力」って何ですか？

Fukui Teachers' Union
学校を知る、教育を知る。

A 変化の激しい社会を生き抜くために必要な、判断力や思考力、問題解決能力のことです。こうした力を養うためには、「知(確かな学力)」「徳(豊かな人間性)」「体(健康・体力)」をバランスよく育てることが大切です。



〈回答者〉
福井県教職員組合
執行委員長
中谷忠裕さん

集団として まとめられない子どもたち

「生きる力」は10年以上前から言われていることで、特に目新しい言葉ではありません。ではなぜこんなに注目されているのか？理由の1つに、子どもの変化が挙げられるでしょう。今の子はリーダーシップや協調性が育ちにくい環境にあります。子どもの数が減り、一人っ子も多く、地域で仲間が集まって遊ぶことは少なくなってきました。同時に集団での自治能力が弱まり、子どもだけで考えをまとめたり、協力して何かを成し遂げることは難しくなっています。相手の気持ちを推し量ったり、逆に自分の考えを発信する力が落ちてきているのです。

こうしたことを踏まえて教育現場では、授業に工夫を凝らし、思考力、問題解決能力を育てる働きかけをしています。少人数でのグループディスカッションや、新聞を使っ

たNIE教育もその一環です。しかしこうした指導を充実させるためには、現在の体制では難しいという現実があります。

指導の充実を図る 取り組み

子どもたち全体的な変化に加え、近年は学習障害や注意欠陥・多動の傾向を持つ子が増えています。家庭に問題を抱えていたり、不登校も増えています。教師はこうした問題を受け止めきめ細かく指導したいと願っていますが、担当できる子どもの人数には限界があります。

対策は、少人数学級を進めることが第一です。また、スクールカウンセラーなど専門の方に協力をお願いしたり、担任以外の大人が授業と一緒にサポートする「T.T(ティーム・ティーチング)」や「生活支援員」などの制度も有効です。福井県では県教組の請願を受け、他県に先がけて少人数学級が実現

し、支援の人数も増えていますが、まだ足りているとはいえません。

教育には マンパワーが重要

他県の事情を知っている方から言われることが多いのですが、福井の先生方は非常に熱心です。独自の教材研究はもちろん、県内全域で教科ごとの研究会を開いて指導法を勉強し、実践しています。こうした一人ひとりの努力が福井の子どもたちの学力・体力を支えているのですが、真面目ゆえに無理をしている先生も多いのです。

結局のところ教育の効率化は難しく、マンパワーを重ねていくしかないのです。いじめなどにいち早く気づくためにも、教師が子どもに向き合う時間が必要です。福井県教職員組合は、こうした現場の声を集約し、よりよい教育が実現するよう、県や関連機関に要望しています。

県内小中学校(平成24年)

スクールカウンセラー/スクールソーシャルワーカーの現状

| スクールカウンセラー 58人 | |
|----------------|------------|
| 中学校 | 小学校 |
| 74校 全校配置 | 45校 全体の約2割 |

週に1~数回、時間単位で配置。近年児童生徒だけでなく保護者の相談も増えています。全校配置(小学校)と、時間数を増やす必要があります。

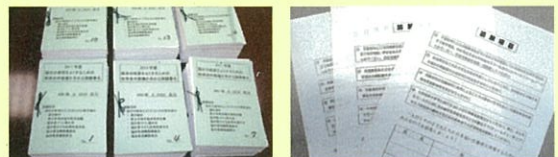
| スクールソーシャルワーカー 12人 | | |
|-------------------|------|------|
| 9市 | 嶺南4町 | 嶺北4町 |
| 10人 | 1人 | 1人 |

社会福祉士など福祉や教育の知識を持つ専門職。福祉関係機関などとも連携して問題解決を図りますが、人数が少なく、要望しても支援が得られないこともあります。



教育請願署名運動でよりよい学びの場に!!

福井県教職員組合は関連団体と共に「教育請願署名運動」を毎年行っています。福井県の教育現場をよくするために、具体的な要求を掲げ、賛同者の署名を集めて福井県議会に提出します。これまでの活動で、小学校低学年の30人学級や、スクールカウンセラーの中学校への全校配置が実現しました。



子どもたちの未来を、もっとよくするために。福井県教職員組合は活動しています。

福井県教職員組合 〒910-8544 福井市大手2-22-28 福井県教育センター内 電話 0776-23-1887 ファクス 0776-23-2919 <http://www.ftu.or.jp/>